

## 第5回産業厚生常任委員会 会議記録

日 時	開会	令和4年8月22日(月)午後1時30分				
	休憩	14:27~14:40/15:00~15:08				
	閉会	令和4年8月22日(月)午後4時34分				
会議場所		斜里町総合庁舎3階 委員会室				
出席委員	委員長	宮内 知 英		委員	山内 浩 彰	
	副委員長	櫻井 あけみ		委員	佐々木 健 佑	
	委員	小暮 千 秋		委員	須田 修一郎	
欠席委員	なし					
行政職員	産業部長	茂木 公 司		民生部長	高橋 佳宏	
	商工観光課長	河井 謙		住民生活課長	武山 和人	
	商工観光課商工労政係長	馬場 務		住民生活課医療年金係長	川島 雄司	
参 考 人						
傍聴者数	一 般 者	名	報道関係者	名	議 員	名
事務局職員	事務局長 平田 和司		議事係長 竹川 彰哲			
<p style="text-align: center;">産業厚生常任委員会を開催したので下記により記録する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 子育て医療費還元に係る協議について (概要等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回委員会では、道内所管事務調査において子育て支援医療費還元について、委員会として重要な事業だという共通認識にたつたことから、本委員会では斜里町で実施するとした場合の課題を明らかにするために開催した。</li> <li>・宮内委員長は道内所管事務調査を欠席されたことから、櫻井副委員長より、これまで一般質問などにより医療費還元の重要性などの質問してきていることなどを含めた経過説明をはじめ、本日の委員会の趣旨が説明された後、担当課との意見交換を行った。</li> <li>・意見交換終了後、担当課を除き、委員会において今後の対応について協議がされた。</li> </ul> <p>(決定事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の委員会(9月6日)までに、委員会としての政策提言のプロセスや何を持って政策提言とするかについて、委員長が議長に対して判断を仰ぐこととした。</li> </ul> <p>その上で、本日の意見交換の内容を踏まえて、事業を実施するための根拠、効果についての内容をまとめ、9月6日までにSideBooksで共有し修正等を行う。9月6日の委員会では内容確認と決定まで行う流れとした。</p> <p>その後、政策会議で協議し、議会全体としての提言とすることとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただし、上記については、委員長と議長による協議次第で変更することとした。</li> </ul>						

(担当課との意見交換の主な内容)

宮 内) 子育て支援施策の充実について、町長の過去の答弁では、医療費の助成だけではなく、様々な施策を実施しているということであったが、医療費に関わる助成というものを、支援を強めていくべきではないかと考えているが、どのように考えるか？

高 橋) 子育て世代の支援とうことで報道されるのが、医療費、保育料、給食費から始まり、主産のお祝い金のほか、公設民営塾など色々な部分でやっている自治体がある。

医療費の無料という所では、東京都でも拡大の動きがあり、斜里町が積極的にここに取り組んでいるかという苦しい状況である。

子育て支援という部分では、昨年、一昨年、民生部の中でも色々な事業に着手しながら、恒久的な財源をいかに探すかという部分が課題だと捉えている。詳細については、原課よりお話しさせていただきたい。

武 山) 事業を実施するとなった場合についてご説明したい。

対象者は 1144 人、医療費総額では 2553 万 5 千円。

弟子屈町では約 8 割が換金されているので、斜里では 2040 万円ぐらいの商品券の交付ということになる。

また、弟子屈町で使っている既存のポイントシステムは導入不可能。現在はクラウドのシステムになっている。クラウドの方が導入費は安くなるが保守費が掛かり 21 万 6 千円。

その他の経費としてカード 1 枚 40 円、IC 付きカード 1 枚 200 円。商品券の印刷や管理用 PC、商品券の換金や発行などを委託するのであればその分の経費も必要になる。

ポテトカードにすると加盟店のみ。加盟していない所をどうするのか。

メリットは、医療費が実質無料になること。子育て世代の経済的支援になる。商品券による地域還元になる。デメリットは、申請するたびに役場に足を運ぶ必要がある。一旦、医療費を立て替え払いしなければならない。

財源は、過疎債を使うとなると、ソフト事業に該当する。基準財政需要額や財政力指数により計算されることになっていることから、財政規模が大きいから多く使えるのではなく、小さな自治体が有利な形になっている。

今年度の過疎債ソフト基準額は、斜里町は 4700 万円、標茶町は 1 億 100 万円、弟子屈町は 8200 万円ほどとなっている。

このため、実施するとなった場合、現在のソフト事業費を振り替えるかどうか検討する必要がある。

佐々木) 現在、斜里町でやるとした場合、ソフト事業の対象になるというのは間違いないか？

武 山) ソフト事業の対象にはなるが、他の事業に充てているので、その分を振り替えるという形になる。

佐々木) この金額が増えるということはないのか？

高 橋) 交付税なので、基準財政需要額がかわるだとか、税収が著しく下がり、財政力指数が極端に下がれば交付枠が増える。町の経済が回復基調にあれば減っていくものである。

弟子屈と標茶では、ソフト事業の 1 割ほどが事業費だが、斜里でいえば半分以上になるので、ここへ踏み込むのがどうかというのがある。

- 櫻 井) 今あるお金でどう工面するかということではなく、町の事業としてできるかできないか。子育て支援の考え方というのは、町長から一般質問で答弁いただいているが、明確な回答はなかった。しかし、再質問の中ではやる必要はあるということが変わってきている。昨年9月の一般質問では、早い時期を見据えてやっていきたいとのことだった。
- また、今の事務事業の見直し、組み換えというのを2年前からおっしゃられている。先ほどの約2千万円というのは、最初議会で聞いた際には8千万円掛かると聞いていた。実際には、これをやるか、やらないかということだと思われ、過疎債に充てているどの事業を振り替えるのかを言いたいのではない。医療費還元事業は、民生部だけではなく産業部も加わって一つの事業をやってはどうかということがポイントである。
- 町内の消費喚起は、プレミアム商品券など産業部がいろいろやってきているが、公費を使わないと町内の消費喚起が進まないと理解している。
- この医療費還元に取り組むことで、2千万円常に商品券で使えるというのは大きいと思っている。金額だけではなく、子育て世代の対象者が変わりながら消費することになる。産業部はこの還元事業についてどのように考えているか？
- 茂 木) 町内向けに流通するのはいいと思うが、医療費が基になりその還元が策が講じられるということについては評価し難い。
- 無料にすることがどうして必要なのかという所の動機付けが大事だと思うし、進んだ先の部分としては地域還元につながるもので、ありだと思う。
- 櫻 井) コロナ以前の話で、プレミアム商品券を町のお金を、人件費を含めて1億円ほど出していた部分の考えは？
- 茂 木) 消費喚起として必要だと判断の基にやってきたという考え方である。
- 小 暮) 無料にすることの必要性ということで、率直に感じていることをお話しすると、日ごろから子育て世帯の方とお話をする機会があるが、小学生でもアトピーや喘息、アレルギー疾患で病院に通っている方が多い。先が見えない中で継続的に病院にかかるのは、家計的な負担が多いという話を聞く。
- 今、斜里町の子育て世代が何を求めているか、次のステップとして医療費無償化、そういう形で子育てを応援する。単純に窓口でお金を払わなくていいというのではなく、払ったお金は別の形で還元されていくということで、町全体が子育てを支援している取り組みとして必要だと思う。例えば、子育て応援プロジェクトなど、ポテトカードとコラボしてはどうかと思う。
- 宮 内) 過疎債のソフト事業は4700万円ということだが、子育て支援の施策をやっていなくても4700万円というのは存在するということなのか？
- 高 橋) 一定の計算方法に基づいて積算される場所。子育て支援の施策は、各自治体それぞれ異なる施策をしているかと思う。斜里町で言えば、国保病院に小児科を一定程度確保するだとか、どこへ充て込むかは考えどころだと思う。
- 小 暮) 財源はひとまず置いておいて、商工観光課では、このアイデア、ポテトカードとの連携ははかれるものか？
- 河 井) ポテトカードとの連携は簡単。財源は別として、やると決まれば容易くできる。

小 暮) やったとしたら、ポテトカードの加盟店も増えると思うがどうか？

河 井) それには少々懐疑的。過去にプレミアム商品券を1億円規模出していたが、加盟店が増えたところと減ったところがあり横ばいが続いているので、医療費還元分の2千万円分のポイントがポテトカードに紐づいたとして、そこまでの力はないと思う。

斜里町の小売店の消費額が年間数十億円とすると、2千万円に対して2200万円くらいの効果くらいかなと思う。

小 暮) 微々たるものかもしれないが、それをきっかけに商店に足を運ぶということもあるかもしれない。大事なのは町全体で子育てを応援していく機運を醸成していかないと、商店街もみんな子育てを応援していますよという気持ち、ここに持っていないと、一過性の取り組みに過ぎなくなってしまう。

櫻 井) 過疎債があってもなくてもやるべきだと思っているし、ただ単に町が潤うというだけでなく、これまで町内の商店街を使わない生産世代の方が多いという中では、町の商店街を使うきっかけ、あるいはそのつながり、目を向かせるという部分では効果が期待できる。また、調査した標茶町と弟子屈町では、医療費還元ということでの取り組み姿勢がまるで違っていた。

弟子屈町は、きっかけがあるのに自分から手を上げない商店はおかしい。行政がやるものではないというスタンスだった。

一方で標茶町は、商工会も一緒になり商店のやる気が増している。商品の品ぞろえも変わったと聞いている。移住者や若い世代の方が来るようになり、これまで商品リサーチすらしないで商品陳列をしてきた店が変わってきたという動きがあるというのは、斜里町でも必要なのではないかと思う。効果は数パーセントに満たないかもしれないが、還元されたものを使う世代は年寄りではなく若い世代。そうした人たちが自分たちの地域のお店に足を向けるという行動だけでも大きく期待すべきものがあるのではないかと思う。

それが固定化された人たちではない。次から次へ対象が変わる。そういう動きは必要なのか。他に商店街が活気づくような有効な手立てがあるのか。

茂 木) 対象者が循環する、人が変わりながらも安定的にお金が地域に循環するという一方で、手法の一つとして考えるのであれば、有効かなと思う。

休憩 (14:27~14:40)

宮 内) 議員側の意見と皆さんの受け止めとはなかなか近寄っていないという印象を受ける。そもそも乳幼児医療費は、なぜ無償化しているのか？

高 橋) 町では北海道から助成を受けながら事業を展開している。

乳幼児医療については、都道府県単位で全く異なり、18歳まで全て無料で取り組んでいる所もある。北海道は決して高い位置にいるわけではない。

斜里町では、今の総合計画では令和6年度から実施ということで予算計上している。

櫻 井) 委員長が言われたのは、なぜ子どもの医療費は無料にすべきとして動き出したのか？

なぜこの国で、乳幼児の医療費が無償化になったのか。何らかの根拠があって必要と認め

ているからやっているのではないかと思うが。

高 橋) 医療保険制度が根幹にある。子育てという観点の中で支援をしなければという過程において、北海道医療の部分も見直しがされてきている。町でも中学生まで無料としているが、財源的な部分があって踏み留まっている状況である。

宮 内) 全国的な課題として少子高齢化があって、地域を担う人を育てていくことは絶対に必要なことだと思う。国全体としても、それぞれの地域を担う子どもたちの子育てしやすい環境を作っていくという考え方の一つとして、医療費の無料化ということで執り組まれていると思う。そういう観点から考えてどうかということ。

高 橋) 否定はしない。町としても中長期計画の中に盛り込んでいるし、実務の部分で他の町のやり方を研究しなければならない所はあるにせよ、今回どうすれば実現できるのか、検討させてもらった。

櫻 井) 今回の医療費還元の良いところは、子どもだから無料でかからないではなく、かかった医療費は窓口で現金を支払うところ。

申請についても、手続きのために役場に足を運ばなければいけないという話もあったが、これも必要なことだと思う。自分たちが住んでいる役場に行く機会ができることで、そこで得るものが大きいという声も聞いている。

突発的に起こるものである、子育てを続ける中で親御さんはかつてよりもお金が掛かっている現状の中で、共働きも増えているという中では、コンビニ受診をする暇はない。

櫻 井) 今日の委員会を踏まえて、委員会としては取り組むべきと思っている。

現在、もうすでに取り組む方向が見えているのであれば、それを後押しする形でとも思っていたが、まだ意識的な乖離が大きいので、委員会の中でどのように取り扱っていくのか協議する。

もしかすると、今後、政策提言という形で町長へ提言する手順を踏んでことになるかもしれない。今後、あらためて協議させていただくことになるかもしれないので、よろしくお願ひしたい。

宮 内) ただ今、櫻井副委員長でまとめていただいたとおりに、今後、協議させていただくことになる場合については、よろしくお願ひしたい。

本日は、職員との協議の場は閉じたい。以後は、委員会での協議としたい。

(～15:00 終了)

## 2. その他

### 1) 知床遊覧船事故に対する委員会での取り組みについて

(説明者：説明・提案内容)

宮 内：議長から、観光船事故に関して何らかの対応をする必要があるのではないかとということで、6月13日の委員長会議の場で、協議がされている。

先の委員会の中で考え方が整理されているとおりに、事故の原因調査や経緯については産業厚生常任委員会が取り組むことではないと思う。

7月中旬に国土交通省から、事故の中間報告がなされている。観光振興計画の中で、観光

の安全という観点から、どのような位置づけがなされているのかという調査に取り組むべきではないかと思うが、行政からの聞き取り調査は、今後の観光対策という前提では、事故の経緯などについて情報の共有というのが必要になってくると思うので、総務文教との合同調査も含めてそのような場を経て調査を進めていきたい。

知床観光の在り方については、観光振興計画等に照らして調査の必要があるというのは、委員会の共通認識に立ったところであることから、進めていきたいと考えるがいかがか。

(決定事項)

- ・前回の委員会で確認されたことと同様、知床遊覧船事故の原因究明や今後の事故防止のための許可制度など、委員会としての取り組みは行わないこととした。
- ・委員会としては、第1回委員会で確認されたテーマのとおり、知床遊覧船事故後の知床観光について、調査を進めていくこととした。

(主な意見)

櫻 井) 商工観光課の方で、アクティビティリスク管理の協議会を設置するというので、そこでどのような取り組みがされるか。6月定例会議の際の説明では、協議会の講師や対象者など何も決まっていないということだった。その進捗を9月定例会議前の委員会で聞いてからの取り組みでもいいのではないか。

宮 内) それでいいと思う。次回の委員会でアクティビティリスク管理の進捗について、担当課から説明を受けることとしたい。

小 暮) 元々委員会の中で、事故による影響の大きい観光事業者について、今後の知床観光の在り方というのを今年の委員会のテーマとしていた。その中に安全性の確保だとかも、もちろん入ってくると思う。

議長からお話があった、事故についての調査というのは別に、委員会としてそもそもテーマとしてあったと捉えているが、それとは別に議長からあったことについて調査するというではないですよ。

宮 内) 議長に言われてということではない。議長には今年の委員会のテーマについても伝えており、そのことに取り組むことで、議長からの要請にも一定程度応えていけると考えている。

佐々木) 二本立てで行くのではなく、元々委員会のテーマとして決めたことに取り組むということではよいか。

平 田) 7月29日以降、議長から宮内議員へこのことについて話がされたと思うが、議長は委員会で取り扱うと思っているので、認識にズレが生じているのではないか。

櫻 井) 最初聞いていたのは、国土交通省から中間報告が出されているが、国がこれから規制だとかを強くしていく、あるいは安全対策の具体的な事例にも言及していく、その内容に関して、斜里町議会として、こういうことをやってほしいだとか、国の安全規制委員会に対して意見書を出すなり、町にこういうことをやりなさいというのを働きかけていくことを、委員会に求められていたと認識しているが。

平 田) どのようなことを求めているのか議長へ聞いたが、9月定例会議では意見書を出すだとか、委員会としてまとめたものを誰かが一般質問で出すだとか、そういうことがあっていいのではないかというのが意図である。

宮 内) 委員会として、現時点で安全性や条例制定、ルールなどについて取り組むということではない。

平 田) その辺が議長にはうまく伝わっていないと思うので、委員長から議長へしっかり話してもらいたい。

資料 : 03-0 [委員会報告] 220727~29\_産厚委員会\_道内所管調査報告書  
03-1 [櫻井] 220727~29\_産厚委員会\_道内所管調査報告書  
03-2 [小暮] 220727~29\_産厚委員会\_道内所管調査報告書  
03-3 [佐々木] 220727~29\_産厚委員会\_道内所管調査報告書  
03-4 [須田] 220727~29\_産厚委員会\_道内所管調査報告書  
03-5-1 [資料\_視察レジュメ] 標茶町\_子育て支援医療費等還元事業  
03-5-2 [資料\_HP 抜粋] 標茶町\_子育て支援医療費等還元事業  
03-6-1 [資料\_視察レジュメ] 弟子屈町\_子育て応援医療費支援事業フレカ  
03-6-2 [資料\_視察資料] 弟子屈町\_子育て応援医療費支援事業フレカ  
03-6-3 [資料\_HP 抜粋] 弟子屈町\_子育て応援医療費支援事業フレカ

音声データ : 04 [音声] 220822\_第 5 回産厚委員会 1  
04 [音声] 220822\_第 5 回産厚委員会 2  
04 [音声] 220822\_第 5 回産厚委員会 3